

【水産業共同利用施設復興促進整備事業計画の実績に関する評価様式】

事業番号	13-1-1
事業名	新地町作業保管施設（共同作業場）整備事業
事業費	289,163,300円（国費 204,126千円） (内訳：設計費8,693,300円、工事費278,300千円、工事監督業務2,090千円、検査数量80千円)
事業期間	令和5年度～令和6年度
事業目的・事業地区	事業目的： 原発事故の影響による出荷制限や試験操業の状況から以前の水揚量を目指すにあたり、規模拡大に対応する網作業を行う施設がないことから、天候に左右されずに※『網こせ』作業を行える共同作業施設を整備することで、水産業の賑わいと復興に寄与することを目的とする。 事業地区：新地町谷地小屋字釣師地区
事業結果の概要、目標の達成状況	編み作業を行う共同作業施設を増設したことにより、天候に左右されずに※『網こせ』作業を行えるようになった。 そのため、効率的に網こせ作業が行え、試験操業から拡大操業となり漁に出る回数が増えたが、天候を気にせず修復ができるようになったため、問題なく漁に出ることが出来ている。 また、限定して魚種を獲るためや、近年、海水温上昇等で獲れる魚種が変わってきているが、網の幅等などの調整を隨時行えるようになったため、早急な対応が出来るようになった。 震災前の水揚げ量・水揚げ金額にはまだ戻っていないが、少しずつではあるが水揚げ量・水揚げ金額は増えてきている。
竣工前及び竣工後の写真については、別紙、『工事写真』のとおり	
事業の実績に関する評価	共同作業場（※網こせ場）ができたことにより、天候に左右されずに※『網こせ』作業を行うことができるようになったため、試験操業から拡大操業になり漁に出る回数が増えたが、効率的に網こせ作業ができることにより問題なく漁に出ることができた。 また、高値で取引される魚種に絞って漁を行ったり、近年の海水温上昇等により、震災前によく獲れる魚種が獲れなくなり、南の温かい地域の魚種が獲れるようになったこともあり、共同作業場が近くにあることにより、変化に早く対応できる漁が可能になってきている。 震災前の水揚げ量・水揚げ金額にはまだ届かないものの、魚種を絞った工夫した漁や気候変動等に対応した漁が出来ることにより、少しずつ水揚げ量や水揚げ金額が増えてきている。 以上のことから、町の基本理念である活力あるまちづくり、活力ある漁業が出来ており、今後の操業規模の拡大にも対応できると考えられる。
事業担当部局	産業振興課農林水産係 電話番号：0244-62-2194

※『網こせ』・・・次の出漁に向けて、使用した網を整える作業